

ご挨拶



千葉県環境計量協会
会長 津上昌平

2022年4月の通常総会にて会長に選任されました津上昌平です。

コロナ渦の中協会活動も制約を受けており、なかなか会員の皆様に各種イベントを通じて直接お目にかかる機会が少なくなっておりますので、この度この協会誌の誌面を通じて改めてご挨拶させていただきます。

略歴

1956年6月 長崎県生まれ 佐世保市在住 中学3年時（1971年）東京都小平市へ転居
1975年4月 千葉大学（理学部化学科）入学 1980年3月卒業
1980年4月 習和産業株式会社（現 日立産機ドライブ・ソリューションズ）入社
2022年3月 同社 定年退職
2022年5月 津上技術士事務所開業

私の略歴については上記に記載しましたが、昭和55年（1980年）に入社以来昨年（2022年）に退職するまでの42年間、一貫して環境測定・分析に関わる仕事をしてきました。入社当初は、主に水質分析の実務を担当していましたが、当時の会社は少人数の規模でスタートしたばかりでしたので、各種サンプリングから報告書の作成まで一貫して業務を行い、いろいろな体験しつつ、毎日が試行錯誤の日々であったと記憶しております。ちょうどその時代（1980年代）は、公害問題から地球環境問題へシフトしはじめた頃で、毎年のように新たな測定項目や分析手法が追加され、業界にとっても忙しくなってきた頃でした。

その後経験を積む中で、各種の資格を取得し計量管理者としてある程度責任をもって仕事をするようになり、上司や周囲からのお誘いもあり、1990年頃から千葉県環境計量協会をはじめ協会活動にも参画するようになりました。その後ふとしたきっかけから、2002年（平成14年）に当時の会長の名取昭平様（セイコーアイテクノロジー）から直々にオファーをいただき、46歳の時に会長に就任しました。当時は理事の経験も無かった私がいきなり会長職を引き受けることになり、かなり戸惑いましたが、現顧問の内野様はじめ当時の役員メンバーや会員の皆様のお力添えをいただき、3期6年間無事に会長職を務めることが出来ました。

さらに千環協役員としての活動を足掛かりとし、一般社団法人日本環境測定分析協会（日環協）や、公益社団法人日本作業環境測定協会（日測協）の各種委員、役員も務めることになり、一時期は日環協の理事、副会長、関東支部長、日測協での京葉支部長も担当させていただきました。これらの協会活動を通じて千葉県だけでなく関東地区から全国までいろいろなところをお伺いする機会に恵まれ、たくさんの方と交流することが出来ました。また関連する学会やセミナーなどを通じて学識経験者の方からも、数多くの知見やアドバイスをいただき、協会（境界）の垣根を越えて自分自身の活動にフィードバックしてきたつもりです。これまでの活動の中で、趣味としている鉄道旅行や各地の名物、お酒をいただきつつ、温泉めぐりも時々体験できたことは、密かな楽しみでもありました。

現在は千環協会長の他、昨年開業した個人事務所での活動をスタートしたところですが、事務所のロゴとして名刺に記載している“SH & E Quest”「S (Safety) = 安全、H (Health) = 健康、E (Environment) = 環境を探究する (Quest) こと」を念頭に置いて仕事をしています。

主な活動は、環境分析に関連する各種研修教育の講師や原稿書き、技術指導などですが、毎年担当している新任者教育などを通じて、これからの次代を担う若い技術者の方々に、私が経験してきたことをより多く伝えていくことが私の使命であると認識しています。

現在の主な活動

- ・千葉県環境計量協会 会長（所属は有限会社ケースオフィス）
- ・津上技術士事務所 代表（自宅にて開業）
- ・公益社団法人日本作業環境測定協会 京葉支部事務局長、研修センター講師
- ・一般社団法人日本環境測定分析協会 標準化委員会委員 JEMCA インストラクター
- ・公益社団法人日本技術士会 環境部会幹事、技術士活性化委員会委員
- ・大東文化大学 スポーツ健康科学部 健康科学科 非常勤講師
- ・日本大学 生産工学部 環境安全工学科 非常勤講師
- ・株式会社高見沢分析化学研究所（埼玉県さいたま市） 技術顧問
（千葉県地球温暖化防止活動推進員 2023年4月から登録予定）

【これからの協会活動について】

とりとめのない文章となってしまいましたが、最後に今後の協会活動について皆様へお伝えしたいことを記載しておきます。

現在環境分析業界を取り巻く環境は、決して順風満帆の明るいものではありません。各社忙しく仕事をされている割には、思ったほど売上が上がらず、また最近の原材料の高騰により利益も圧迫され、社員の賃上げもままならず、業界全体としても先行きが見通せない状況のようです。

一方、SDGs やカーボンニュートラルへの取り組みを含めたGX化及び、社会全体でのDX化は事業者にとっても大きな課題であり、これらに手をこまねいている訳にはいきません。何とかこの状況を打破し、環境分析業界を活性化していくためには、一企業だけでなく、地域や業界全体での連携した取組みが重要であると考えております。今後は「千葉県環境計量協会」が会員、行政機関を含む関係機関とより精力的に連携して、これらのテーマに取り組んでいきたいと考えております。

昨年10月に研修見学会をオンラインにて開催いたしました。その時の「アースドクターふなばし」様の地球温暖化防止の講演に大変感銘を受けました。私自身も一人の千葉県民として、また環境分析に関わる業界団体の代表者として、環境問題に取り組む中で何か出来ることはないのかと考え、ちょうどその頃に千葉県にて公募中であった「千葉県地球温暖化防止活動推進員」に登録申請し、保有する資格・知識や過去の経験などを生かして活動することとしました。今後何かの機会にこの活動を通じて皆様にお目にかかれることになるかも知れません。その際には是非気楽にお声掛けください。

会員及び関係者の皆様、“チーム千環協”としての活動を、どうぞ今後共よろしくお願いいたします。

千葉県環境計量協会歴代会長 ()内は就任当時の会社名

- 初代 前沢 辰雄 (財団法人千葉県環境技術センター)
昭和 51 (1976) 年度 ~ 昭和 55 (1980) 年度
- 第 2 代 栗山 晃太郎 (株式会社住化分析センター)
昭和 56 (1981) 年度 ~ 昭和 59 (1984) 年度
- 第 3 代 藤平 康万 (株式会社日軽技研分析センター)
昭和 60 (1985) 年度
- 第 4 代 後藤 一郎 (株式会社環境管理センター)
昭和 61 (1986) 年度 ~ 平成 2 (1990) 年度
- 第 5 代 茂木 義資 (キッコーマン株式会社)
平成 3 (1991) 年度
- 第 6 代 加藤 元彦 (株式会社住化分析センター)
平成 4 (1992) 年度 ~ 平成 5 (1993) 年度
- 第 7 代 中村 豊 (中外テクノス株式会社)
平成 6 (1994) 年度 ~ 平成 8 (1996) 年度
- 第 8 代 名取 昭平 (セイコーアイ・テクノロジー株式会社)
平成 9 (1997) 年度 ~ 平成 11 (2001) 年度
- 第 9 代 津上 昌平 (習和産業株式会社)
平成 12 (2002) 年度 ~ 平成 19 (2007) 年度
- 第 10 代 武藤 敏夫 (株式会社東電環境エンジニアリング)
平成 20 (2008) 年度 ~ 平成 21 (2009) 年度
- 第 11 代 甘崎 恭徳 (中外テクノス株式会社)
平成 22 (2010) 年度 ~ 平成 25 (2013) 年度
- 第 12 代 野口 康成 (株式会社太平洋コンサルタント)
平成 26 (2014) 年度 ~ 平成 29 (2017) 年度
- 第 13 代 福田 茂晴 (東京パワーテクノロジー株式会社)
平成 30 (2018) 年度 ~ 令和 3 (2021) 年度
- 第 14 代 津上 昌平 (有限会社ケースオフィス)
令和 4 (2022) 年度 ~